

# 令和2年度 さつない学園 途別小学校学校経営方針

## I さつない学園 めざす子どもの姿

「ふるさとを愛し たくましさを身に付けた子ども」  
～3つの力を磨く義務教育9年間～  
自ら表現していく力 自ら学ぼうとする力 他とかかわり合う力

## II 学校教育目標

### あかるい子（徳）

- 豊かな人間性や社会性
- 道徳的価値観に基づき  
生き方を考える態度
- ふるさとを愛する心

### かしこい子（知）

- 学びに向かう力
- 生きてはたらく知識・技能
- 未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力

### たくましい子（体）

- 健康の保持増進
- 体力の向上
- 粘り強くやり抜く態度

## III めざす学校像

温もりと優しさのある学校

## IV 経営理念

学びがいのある学校

働きがいのある学校

応援しがいのある学校

子どもたちにとって～学びがいがあって、教職員にとって～働きがいのある学校  
ならば、必然的に、保護者や地域住民が応援したくなる学校となるであろう。

## V 基本方針（めざす学校像を実現するために・・・）

### (1) 子ども一人一人の夢や願いに応える教育の推進

主役は子どもである。子ども一人一人が大切にされ、居場所が確保されるとともに  
共生の心に満ちた学校を目指す。

### (2) 組織体として機能する協働体制の確立

職場は、意欲的に働きがいをもって、仕事ができるよう明るい雰囲気でありたい。  
さらに、組織としての機能が発揮されるために教職員個々の特性や持ち味が十分生  
かされる職場づくりを目指す。

### (3) 開かれた信頼される学校の推進

積極的に学校を開き、家庭・地域・他校と連携・協働する体制を強化して、更に  
信頼される学校を目指す。

(4) 安全・安心な学校の構築

学校は安全・安心な場でなくてはならない。常に危機意識をもち、事故やいじめの未然防止に向け全職員で協働し、安全・安心で楽しい学校を目指す。

(5) 「生きる力」を育む、特色ある教育の実践

今日的な教育課題や学校の課題を明確にとらえ、本校の特色を生かしながら、知・徳・体バランスのとれた教育活動を展開する学校を目指す。

VI 今年度の重点

自ら学ぶとべっ子（知）

・学び方を習得し、自ら工夫して力を高めるとべっ子

明るく挨拶ができるとべっ子（徳）

・だれにでも明るく爽やかに挨拶できるとべっ子

遊びや運動に親しむとべっ子（体）

・元気よく遊び、運動することが好きだとべっ子

VII 領域別課題と方策

(1) 確かな学力の向上を図る教育の推進

目標・指導・評価の一体化に努め、体験的・課題解決的な学習、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点による教科指導の改善・充実と確かな学力の向上を目指す。

①一人一人に応じた複式授業の工夫改善を図る。

②地域素材の教材化、地域人材の活用と体験的学習、問題解決的学習の推進に努める。

③チャレンジテストの活用、朝学習・補充学習の充実を図る。

④言語活動の充実により読解力を高め、学力の向上を図る。

⑤ICT機器、各種教材教具などの効果的な活用を図る。

⑥学力調査・CRTなどの結果分析から学力向上プランを作成し、目標の達成を図る。

⑦全校で統一した学習のきまりに基づき、継続的な指導を図る。

⑧家庭と連携した子どもの生活習慣の改善～「早寝・早起き・朝ごはん」

(2) 豊かな心の育成

思いやりの心を育て、よりよく生きていくための道徳的実践力を育成する。

①開かれた道徳教育を推進する。（人材活用、参観授業、研修）

②児童の内面に根ざした道徳性の育成に努める。（心に響き、心が動く道徳）

③特別の教科「道徳」の時間の充実を図る。（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる）

④規範意識の向上を図る。（挨拶・礼儀やマナー、立ち振る舞いなど）

⑤命の尊重やいじめ根絶への指導の充実を図る。

(3) 健やかな体づくり

安全に気を付け、目標に向かってねばり強く運動に取り組む子どもを育成し、体

力・運動能力の向上を目指す。

- ①体育の授業改善を図る。(ユニバーサルデザインの視点、言語活動の重視、体づくり運動の重視)
- ②集団的な遊び、放課後活動等、体づくりの場の設定を図る。
- ③新体力テストの活用を図る。(個に応じた指導や授業改善)

(4) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

障がいのある児童や特別な支援を要する児童一人一人の教育的ニーズを把握し、自立に向けた主体的な取組について、適切な指導及び必要な支援を行う。

- ①コーディネーターを中心に、特別支援教育の理解と専門性を高め合う。
- ②特別な支援を要する児童に対応できる全校支援体制の工夫を図る。
- ③個別の教育支援計画・指導計画の充実を図り、個を見とる力を高め合う。
- ④通常学級との交流等を通じた豊かな人間関係づくりに努める。
- ⑤ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりに努める。

(5) 実践的な研修の充実

学校経営方針に基づく校内研修の計画的な推進を図り、教えるプロとしての授業改善を通して、資質能力の向上に努める。

- ①研究・・・授業力を磨く。
  - ・開かれた校内研修の充実に努める。(特認校公開参観日など)
  - ・質の高い授業の構築を図る。(わかる・楽しい授業)
  - ・町内複式教育研究会との連携を生かす。
  - ・町教育研究所との連携を生かす。
- ②研修・・・総合的な人間力を磨く。
  - ・教職に対する強い情熱、公教育に携わる使命感をもつ。
  - ・子どもを惹きつける豊かな人間性を磨く。
  - ・各種研究会・研修会・講演会等への積極的な参加に努める。
  - ・指導主事等の指導助言を活用した校内研修の充実に努める。

(6) 開かれた魅力ある学校づくり(コミュニティ・スクールの活用)

積極的に学校を開くとともに、保護者・地域住民との連携・協働に努めることにより、信頼に応える開かれた学校づくりを推進する。

- ①学校の見せる化に努める。
  - ・積極的に学校を開く取組を進める。
  - ・HP、各種便り等による情報発信に努める。
- ②家庭・地域との連携、協働に努める。
  - ・三世代交流の充実と推進(稲作体験学習、もちつき集会、途別校下をきれいに等)
  - ・さつない学園学校運営協議会を活用した学校関係者評価による学校改善
- ③途別小学校を守る会と小規模校特別転入学制度の推進における連携に努める。
- ④さつない学園学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクールを推進する。

## (7) 小中一貫教育等の推進

さつない学園のめざす子ども像を共有し、9年間の連続した見とりと系統的な指導により、中1ギャップを緩和し、子ども一人一人の可能性を最大限に伸ばす。

- ①学校便り、掲示板等により、小中一貫教育等の情報の積極的な発信に努める。
- ②9年間を見通したカリキュラムの編成・実施・評価・改善を推進する。
- ③小中一貫の学習指導、生徒指導に関する情報交流や研修に努める。
- ④出前授業や相互の授業参観について協働して推進する。
- ⑤特別支援教育の個別の支援計画の引継等を計画的に推進する。
- ⑥中学校による招待、メッセージ、講座等に対する協力体制を整える。

## (8) 食農教育の充実

様々な体験的活動を通して「食」や「農」に関する知識と「食」を選択する判断力を習得し、健全な食生活を実践できる児童の育成に努める。

- ①知育（頭を育てる）、徳育（心を育てる）・体育（体を育てる）を根底から支える食農教育（命を育てる）の充実に努める。
- ②「食」や「農」に関する正しい知識や安全・安心な食を選択する力を習得させるとともに、地域産食材、食文化・歴史等に関する指導の充実に努める。
- ③望ましい食習慣を身に付け、食に対する感謝の心を育てる。
- ④三世代立体交流型教育活動の推進に努める。（稲作・畑作・調理・加工・会食・発表）
- ⑤栄養教諭等と連携した食育の充実に努める。

## (9) 危機管理への迅速な組織的対応

絶えず危機意識をもって児童の生命を守り、家庭・地域と連携しながら、自ら健康安全に努めようとする態度の育成に努める。また、教職員の服務規律の保持と心身の健康保持に努める。（働き方改革）

- ①事故やけがの未然防止と再発防止等の安全指導を徹底する。
- ②啓発的な防災教育を推進する。（自分の身を守るとともに他者を思いやる意識の醸成）
- ③防災に関わる危機管理の対応を徹底する。
  - ・関係機関と連携した避難訓練（地震・火災）等を実施する。
  - ・途別小学校防災規定を活用する。
- ④学校事故に関わる危機管理の対応を徹底する。（理科薬品、刃物や火気使用等）
- ⑤交通事故に関わる危機管理の対応を徹底する。
- ⑥感染症・食中毒に関わる危機管理の対応を徹底する。（トイレや手洗い場の清掃、手洗い、うがいの習慣化、日常の健康観察など）
- ⑦変質者・不審者に関わる危機管理の対応を徹底する。
- ⑧金銭の取り扱いや情報・文書に関わる危機管理の対応を徹底する。
- ⑨教職員の勤務時間・業務改善を意識した取組を推進する。
  - ・定時退勤日を機能させる。
  - ・PTA 行事を含め、各種行事等の精選や見直しを推進する。